

平成30年度第2回新潟市歯科保健推進会議 会議概要

日時：平成30年11月7日（水）

午後7時00分～8時35分

会場：新潟市総合保健医療センター講堂

1 出席者

【委員】

石井委員、上原委員、江面委員、岡田委員、小川委員、加藤委員、小松崎委員、
長井委員、長谷川委員、葭原委員

（欠席）井上委員、大滝委員、柄沢委員、丸山委員

【事務局】

佐藤保健衛生部長、高野参事（健康づくり政策担当）、高橋保健所長、岸副参事、
伊藤保健所健康増進課長、岩谷医監、瀧澤課長補佐、佐野課長補佐、平野主査

【関係課】

障がい福祉課、地域包括ケア推進課、保険年金課、こども家庭課、保育課、
地域医療推進課、食と花の推進課、保健給食課

【傍聴者】 なし

2 議題

- （1） 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）素案について
- （2） 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）評価指標及び目標値（案）について
- （3） 「新潟市生涯歯科保健計画（第5次）」策定の今後の予定
- （4） その他

3 概要

<議題（1） 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）素案について>

－第3章について－

- ・むし歯を持つ割合が6歳児ではたった2%なのに、12歳児で約20%へ急激に増加している理由が分かりにくい。
- ・園児期・学齢期の現状と課題において、p.13の「多くのむし歯や未処置歯のある児童生徒もおり、その対応が求められます」は、個々の状況に応じた等の文言があると、p.12の「対策」との違いが分かるのではないか。
- ・園児期・学齢期の現状と課題において、p.13の「健康格差はその後の格差の拡大に繋がっていく」とあるが、ここでの健康格差は、口腔に限ってのものと思うので、それが分かるような表現にした方がよい。また、実際に健康格差が拡大するような情報について可能であれば確認してほしい。
- ・高齢期では歯周病の進行によって歯肉が下がり、歯の根が現れ、その部分がむし歯になりやすくなる。治療が難しい箇所でもある。P.18の「歯根部のむし歯」について、歯周病の進行が原因で歯肉が下がることも追加してほしい。
- ・口腔がんについて、全国での状況を記載しているが、市民の罹患状況をモニタリングし、アプローチしていけるとよい。

－第5章について－

- ・ p. 34 高齢期の【具体的な取組】において、自分の歯が新しく生えて増えるような表現となっているため、改めた方がよい。
- ・ 園児期・学齢期、成人期、高齢期の「取組の方向性」の中に、それぞれ「むし歯予防の方法」があるが、歯間部むし歯や歯根部むし歯など各世代に特徴的なむし歯について触れ、どのタイプのむし歯を予防するとよいか連想しやすくしてほしい。
- ・ 園において食後の歯磨きだけでなく、おやつ後のうがいを推進するような働きかけをしてほしい。
- ・ むし歯予防のためのうがいや歯磨きは、園だけでなく、家庭での役割も大切だと思う。
- ・ 就学前健診において、「多数歯むし歯の傾向」がある子にはお知らせを出すことになった。色々な面で「多職種連携」の表現が記載された。学校においても、歯科医師や歯科衛生士など他の職種と連携して集団歯科指導が継続できるとよい。

<議題（2） 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）評価指標及び目標値（案）について>

- ・ 9、10番のフッ化物洗口実施の評価指標では、施設数の割合を長年指標としているが、むし歯を持つ児童の割合と合わせて予防効果が評価しやすくなるため、将来的には実施児童数を指標にすべきと思う。
- ・ 4番の「親の」は不要。11番の「者率」は、他の指標と合わせて、「の割合」に修正するなど、全体的にもう少し分かりやすい表現にするとよい。
- ・ 中央社会保険医療協議会の報告によると、在宅での歯科訪問診療の算定回数は増加傾向にある。歯科診療所数は今後減少すると思われ、19番の「訪問歯科診療を実施する歯科医院の数」ではなく、実際の訪問診療件数を指標にできないか。

<議題（3） 「新潟市生涯歯科保健計画（第5次）」策定の今後の予定>

- ・ パブコメや議会報告の前に、修正した素案を委員へ送付してほしい。

<議題（4） その他>

- ・ 参考資料2 「歯・口の健康づくり実践事例発表会」のご案内について保健給食課より紹介

【配布資料】

次第、座席表、新潟市歯科保健推進会議委員一覧

資料1 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）素案

資料2 新潟市生涯歯科保健計画（第5次）評価指標及び目標値（案）

資料3 「新潟市生涯歯科保健計画（第5次）」策定の今後の予定

参考資料1 新潟市歯科口腔保健推進条例（素案）

参考資料2 「歯・口の健康づくり実践事例発表会」のご案内